

いのちのバトン 薬はみんなで作るもの パート10



「乳がんを学ぶ」 がん個別化治療時代の 医療者と患者のコミュニケーション

日時 2018年7月8日(日) 14:00~16:30

会場 立川女性総合センター アイム ホール 1階
〒190-0012 東京都立川市曙町2-36-2 ファーレ立川センタースクエア内

Program

司会・進行 内田 絵子 氏 NPO法人ブーゲンビリア 統轄理事長

14:00 オープニング (5分) 中村 誠 氏 ファイザー株式会社 取締役執行役員 イノベティブヘルス事業部門 オンコロジー部門長

14:05 第1部 特別講演
～ 乳がん個別化治療時代の医療者と患者のコミュニケーション ～ (20分)
中村 清吾 医師 昭和大学医学部外科学講座乳腺外科学部門 教授

14:25 第2部 基調講演
～ 現場からの声：医療者と患者のコミュニケーション ～ (50分)
渡邊 清高 医師 帝京大学医学部内科学講座腫瘍内科 准教授
武川 篤之 氏 アレルギー患者の声を届ける会 代表
認定NPO法人日本アレルギー友の会
佐藤 一彦 医師 東京西徳洲会病院 乳腺腫瘍センター長
中山大學医学部 客員教授
内田 絵子 氏 NPO法人ブーゲンビリア 統轄理事長
多和田 奈津子 氏 一般社団法人グループ・ネクサス・ジャパン 理事

15:15 <休憩:10分>

15:25 第3部 パネルディスカッション
～ がん個別化治療の情報収集のあり方・伝え方とは ～ (60分)
司会 内田 絵子 氏 NPO法人ブーゲンビリア 統轄理事長
中村 清吾 医師 昭和大学医学部外科学講座乳腺外科学部門 教授
多和田 奈津子 氏 一般社団法人グループ・ネクサス・ジャパン 理事
渡邊 清高 医師 帝京大学医学部内科学講座腫瘍内科 准教授
武川 篤之 氏 アレルギー患者の声を届ける会 代表
認定NPO法人日本アレルギー友の会
佐藤 一彦 医師 東京西徳洲会病院 乳腺腫瘍センター長
中山大學医学部 客員教授
金杉 敬子 氏 NPO法人ブーゲンビリア 統轄副理事長

16:25 クロージング(5分) 内田 絵子 氏 NPO法人ブーゲンビリア 統轄理事長

講演者のご紹介



中村 清吾 医師

昭和大学医学部外科学講座乳腺外科学部門 教授

1982年 千葉大学医学部卒業後、聖路加国際病院外科にて研修
 1989年 聖路加国際病院外科医幹
 1997年 聖路加国際病院外科副医長
 2003年 聖路加国際病院外科医長(管理医長)
 2005年 聖路加国際病院プレストセンター長(初代)、乳腺外科部長
 2006年 聖路加看護大学臨床教授、日本赤十字看護大学 非常勤講師
 2010年より現職 昭和大学医学部乳腺外科教授、昭和大学病院プレストセンター長

医系総合大学としてのメリットを最大限に活用し、関連各科と密接に連携した患者中心の医療を提供。日本乳癌学会や国際委員会、日本乳がん情報ネットワークなど様々な場において、乳がん治療の発展に力を注いでいる。



渡邊 清高 医師

帝京大学医学部内科学講座腫瘍内科 准教授

1996年 東京大学医学部医学科卒業
 1996年 東京大学医学部附属病院内科研修医
 1997年 公立昭和病院救急医学科レジデント
 1998年 自治医科大学附属大宮医療センター消化器科レジデント
 2003年 東京大学医学部附属病院消化器内科医員
 2008年 国立がんセンターがん対策情報センター 室長、中央病院総合内科
 2014年より現職 帝京大学医学部内科学講座 腫瘍内科 准教授

がんの診療、臨床研究とともに、研修教育に携わる。がん対策の取り組みの一環として医療に関する信頼できる情報の発信と、現場と地域のニーズに応じた普及の取り組みを実践している。



佐藤 一彦 医師

東京西徳洲会病院 乳腺腫瘍センター長
 中山大学医学部 客員教授

1994年 防衛医科大学校病院において初任実務研修
 1998年 防衛医科大学校において専門研修
 2001年 防衛医科大学校医学研究科入校
 2006年 国家公務員共済組合連合会三宿病院
 2007年 東海大学八王子病院乳腺内分泌科
 2008年 東京西徳洲会病院乳腺腫瘍科部長 センター長
 2008年 中国国立中山大学医学部客員教授
 2009年 東京西徳洲会病院化学療法センター センター長
 2015年 東京西徳洲会病院包括的がん診療センター センター長
 2015年 中国国立中山大学医学部客員教授(更新~2018年9月1日)
 2016年 東京西徳洲会病院副院長

センチネルリンパ節生検とAPBI(加速乳房部分照射)の先駆者。日本には定着しないかも、と思われていたAPBIだが、8年で400例近い組織内APBIを単施設で実施し、4年局所制御98%という優れた成績を提示。多くの女性に適用可能な部分照射について様々な角度から検証を行い、その標準化と普及に努めている。



内田 絵子 氏

NPO法人ブーゲンビリア 統轄理事長

1994年 シンガポールにて乳がん摘出手術、抗がん剤治療、乳房再建手術を受ける
 1998年 「内田絵子と女性の医療を考える会」立ち上げ
 2004年 「内田絵子と女性の医療を考える会」を「NPO法人化ブーゲンビリア」とし、理事長就任
 2016年 理事長を務めるNPO法人ブーゲンビリアが、平成28年度「東京都女性活躍推進大賞」優秀賞(団体・地域分野)を受賞

著書に『メイド・イン・シンガポールのおっぱい』『おっぱいが二つほしい』など。20年の患者団体活動の原点は「せつかく乳がんになったのだから」の合言葉のもとに仲間たちが集い「元気をあげたりもらったりのおしゃべり会」。医療の患者中心度を計測して評価するための指標づくりの5原則「(1)人間の尊厳を大切に (2)治療選択への患者参加 (3)医療政策への患者参加 (4)広く公平な受療機会 (5)正確な情報提供」を大事に、より良い医療環境を求めて活動している。

■ 会場のご案内

立川女性総合センター アイムホール 1階

〒190-0012 東京都立川市曙町2-36-2
 フェーレ立川センタースクエア内
 TEL. 042-528-6801

JR立川駅(北口)から徒歩7分。
 多摩都市モノレール立川北駅(北改札)から徒歩5分。
 いずれも歩行者デッキでおいでいただけます。
 このほか、くるりんバスもご利用いただけます
 (女性総合センターバス停下車)。

